

平成28年度石巻地域産業人材育成・定着推進会議（第2回）

参加者発言要旨及び意見交換概要

日 時：平成28年9月30日（金）午後1時30分から

場 所：宮城県石巻合同庁舎102会議室

1 会議の目的

石巻地域の「産」「学」「官」が連携し、産業人材育成・定着取り組む「石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議」の部会として、プラットフォーム構成団体、各教育機関等及び地元企業による具体的な支援策の検討を行う「推進会議」を開催し、石巻地域の産業人材育成・雇用・定着に向けた取組について意見交換を行うとともに、学生・生徒の職業観の醸成や地元産業（企業）理解を促進するための連携体制の構築を目指す。

2 出席者

【産業】

石巻商工会議所 地域人づくり支援課長	佐藤 洋一
株式会社イグナルファーム 常務取締役	武田 真吾
株式会社ソーワダイレクト 常務取締役	小野寺夢津子
株式会社高政 総務課長	佐藤 譲
株式会社橋本道路 統括部長	藤村 かおり
医療法人医徳会真壁病院 総務課	高橋 憲広
株式会社ヤマトミ 代表取締役	千葉 雅俊
社会福祉法人和仁福祉会特別養護老人ホーム仁風園 理事施設長	竹中 也寸志

【教育】

石巻専修大学 事務部 主任	猪瀬 寿人
宮城県石巻好文館高等学校 シズンシップ教育推進コーディネーター	西條 高司
宮城県石巻商業高等学校 教諭	鶴田 幸喜
宮城県石巻北高等学校 教諭	山本 浩人
宮城県石巻北高等学校飯野川校 連携コーディネーター	本木 由紀子
宮城県水産高等学校 教頭	高梨 正博
宮城県石巻西高等学校 教諭	吉見 郁哉
宮城県東松島高等学校 教諭	松田 員知
石巻市立桜坂高等学校 教諭	小山 信
宮城県立支援学校女川高等学園 教諭	千田 理愛
石巻地区中学校長会 石巻市立荻浜中学校長	三浦 浩
石巻地区小学校長会 石巻市立住吉小学校長	石川 伸二

【行政機関】

石巻公共職業安定所 統括職業指導官	渡辺 正俊
宮城県東部教育事務所 所長	奥山 勉
【事務局】東部地方振興事務所 地方振興部長	佐藤 健二
地方振興部 次長（総括担当）	薄木 茂樹
商工・振興第一班 次長兼企画員（班長）	元木 潔
〃 【担当】技術主査	菅原 伸

【オブザーバー】

沿岸地域就職サポートセンター事業 石巻サポートセンタープロジェクトマネージャー	片山 真平
---	-------

3 参加者発言要旨

【協議事項1 第1回産業人材育成プラットフォーム会議の協議結果について】

「石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議（本会議）」と「石巻地域産業人材育成・定着推進会議（部会）」の位置づけを明確にする。

高等学校も石巻地域プラットフォームの一員という意識を持って、石巻地域産業人材育成プラットフォームを学校のキャリア教育に活用。地元企業との連携を促進する方向性を示唆

○取組の5本の柱をプラットフォーム会議で決定

- ① 両会議の運営
- ② 地元企業とのマッチング支援のための「産業人材育成・定着協働者ガイド」及びインターンシップの推進に向けた「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」の活用
- ③ 合同企業説明会の開催
- ④ 「声出し・話し方」セミナーの開催
- ⑤ 「新入社員研修」の開催など、地元企業定着対策

個々の取組から地域一体となった産業人材育成プラットフォームの取組へ

【協議事項2 平成28年度取組状況と今後の予定について】

○ハローワーク石巻

平成28年度の求職者数 593人（8月末現在）管内293人 県内102人 県外84人
管内企業からの求人750件 前年9月を既に上回る。

企業合同説明会のアンケート結果

- ・資料を用いての企業からの説明はとても分かりやすかった。
- ・説明会での企業担当者の熱心な対応に感謝する。

企業説明の時間は15分×3回実施。就職したい業種であるかどうかにかかわらず説明を受けて、未知の職業に関する知識を得て就職を考えることが重要。

○石巻専修大学

平成27年度から1, 2年生を対象とした地域密着型、地域貢献型インターンシップ、石巻地域の企業を中心に業務内容の説明、工場見学を実施。3年生は継続した取組、授業として取り入れているが、就業型インターンシップを実施、石巻地域、県内及び学生の出身地の企業で夏期休暇中に実施。10月に発表会を実施して単位として認定。

1, 2年生で職業観・就業観を醸成し、3年生で実際に長期間体験。課題はインターンシップ先が就職先として直結していないこと。学生の早期の準備と学校側のフォローアップ体制を構築中。

キャリアガイダンスは毎年本学主催で年3回開催。大学生の就職活動開始時期（例年2月～3月）

3月初め仙台2日間、3月24日石巻で、参加企業143社、参加学生391人このガイダンスがきっかけで就職するケースは多い。随時学内で単独企業説明会を年100回程度開催

「声出し・話し方」セミナーは、3年生対象の進路ガイダンス内で4回、リクルートファッションセミナー、ビジネスマナーセミナーとして実施。来月は女子学生限定のビジネスメイク・ビューティー講座を予定

平成29年度から新カリキュラムがスタート。1～3年生のキャリア教育に注力。地元企業と連携し在学中から地域企業を知る機会を提供、地元学生の定着と他地域出身学生の石巻への就職を支援。

○石巻高校、石巻好文館高校

進学校のため、産業人材育成という取組は該当無し。進学後にどのような職業に就くかを考えさせる取組としてNPO法人ハーベスト主催のキャリアセミナーを実施。県内の社会人22名が講師として参加。今後はOBからの講話を計画。

1年次に就職ガイダンスを実施。甲斐ある人になれ。という校訓に基づき、各界で活躍する社会人からの講話を実施。

○石巻商業高校

2年次のインターンシップで「ガイドブック」を活用し、受入先企業の開拓。手順としては、受入先

企業リスト（地元企業65社）を作成し、生徒にその中から選ばせる形。今年度は希望者166名全員が自らの選択でインターンシップを実施。

合同企業説明会には11名が参加。今日現在で2名が内定。今年度就職希望者は70名で、9月16日以降全員が1回目の入社試験を受験し、今日現在34名が内定。

ロングホームルームの時間に各種進路行事を実施。近年は100%の卒業生が進路達成。

○石巻北高校

総合学科として、1年次は「自分の将来について考える」という授業を実施。2年次から5系列に分かれるが、自分の将来を見据えて専門分野を決定。自分を見つめ、後悔のない進路選択をすることで離職率も低下する。

2年次からは専門分野毎に違う取組。教養系列では地元企業から4社の経営者、その従業員を講師に招き講話を実施。

インターンシップは2年次全員が実施。1年次に考えた「自分の考え」と実際の社会に出た就業体験の違いで、さらに考えさせる。

合同企業説明会も就職希望者には積極的な参加を促す。就職活動中に迷っている生徒にその時の縁で企業から声がかかるなど、良い機会。

○石巻北高飯野川校

2年次のインターンシップの調整に「ガイドブック」を活用。通常は進路指導室で保管・使用。インターンシップは10月に実施。生徒からの業種の希望と通勤を考慮して受入先を調整。8月に3修生の生徒11名が4日間のインターンシップを実施。介護施設、保育所、販売担当など。

合同企業説明会には就職希望者8名全員が参加。各人が3社の説明を受け、その中から入社試験前の個別職場見学も依頼。

コミュニケーション能力向上を目指して「声と話し方」セミナーを実施。4年生23名と3修生6名の29名が参加。意欲的に参加した生徒が多く、休憩時間に自主的に練習した生徒も。就職試験の面接練習前にはセミナーを思い出して、声を出し伝えようとする姿勢が見られた。

卒業生の定着指導で各企業を訪問。働く姿を映像にして在校生にも上映。

○宮城水産高校

ガイドブックを活用して水産加工業の経営者講話を実施。水産業の特殊性もあって、従来は県外からの講師招聘が多かったが、地元企業から協力があることは有意義。

インターンシップは5類型ある学科で類型長を中心に各企業へ依頼。1類型10社程度の企業が協力。7月から10月に3日間の日程で実施。新学科の調理類型は飲食店等の調理場が派遣先となり、新たな受入先の開拓が必要。

合同企業説明会は学校の資格取得講習会と重なり、10名ほどの参加に止まった。

その他の取組として「地域連携会議」を開催。市内の水産加工業の企業と連携した会議。高校の取組の説明や今後に向けた意見交換。就職試験前には模擬面接会を実施。石巻商工会議所へ依頼し、4日間企業経営者、幹部従業員の派遣を受けた。

○石巻西高校

普通高校であるが毎年約10名が就職希望。合同企業説明会に8名参加。石巻地域企業への応募は少ない。生徒の希望は仙台方面が多いが、高校としては地元企業への就職促進を掲げ、同業種・類似する条件の地元企業があれば地元の求人を紹介。仙台と地元企業の労働条件には差異はない。生徒の判断材料は福利厚生と保険加入、休暇の取得実績。

○東松島高校

インターンシップは希望者を募って5名が実施。今年度は学校独自の取組であったが、今後は「ガイドラインの受入計画」の活用で調整が容易になると感じた。合同企業説明会が宮城県主催の就職達成セミナーと同日程となり不参加。非常に残念。「声出し・話し方」セミナーは他校の実績を参観。有効と感じている。12月にキャリアセミナーを実施。多方面から社会人、大学生等を招いて車座の講話。

○市立桜坂高校

街中ポスタープロジェクト。1年次生徒の地元商店街の状況調査を予定。商店街をPRするポスター作成を目標に、店舗の内容、名物人材発掘を実施。

夏期休暇中のインターンシップは2年次全生徒を対象に実施。昨年度は一部生徒が対象であったため従来の受入先で対応。今年度は対象者が3倍となり「ガイドブック」を活用し、受入先企業30社ほどを開拓（合計54社で実施）。1年次の社会人講話の講師選定にも活用し、大変有効。

地元企業と生徒の住居の距離を検討せず企業にインターンシップの協力を依頼。立地によっては断る事態となり大変失礼だった。自動車移動が出来ない中でのインターンシップ先への通勤の検討が課題。

インターンシップ先は学校が指定し、希望業種ではない企業へ派遣。企業側からは賛否両論があったが、石巻の産業について学び、1年生へのレクチャーや相互の意見交換により、より多くの情報を生徒が共有することがねらい。受入先企業では経営者や従業員の意見を聞き、その企業の良さをキャッチコピーとしてまとめる学習や発表会も実施。合同企業説明会へ約70名が参加。県内、県外希望者にも業種の種類について学ばせる。就職希望者全体で参加。来年度は県内でインターハイが実施される日程調整が必要。「声出し・話し方」セミナーでは、笑顔や発声について学び、女子高ということもあり概ね良好な結果。今後は復興事業についての講話や石巻の復興を考える機会を予定。

○女川高等学園

「ガイドブック」で障害者への関心の項目設定に感謝。関心のある企業を中心に職場研修を依頼。現場実習、デュアルシステム研修、職場見学について様々な企業が協力。インターンシップは15日間の日程で実施。2市1町内の24社へ派遣予定。合同企業説明会は教員のみ参加。学校の様子を説明し、受入先企業を積極的に開拓。今後は求人票に見立てたボランティア依頼を用意し、生徒によるボランティア活動を実施予定。

○協議事項2 質疑応答

（質問）石巻専修大学の学生の石巻地域への就職者数ほどの程度か。昨年度実績では。

（回答）毎年卒業生の1割から2割が就職。15名～20名くらい。

【協議事項3 石巻地域版インターンシップの実施状況について】

「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」では、高校が「派遣計画」、受入先企業が「受入計画」を策定して実施すると規定。これから計画を策定してインターンシップを受け入れた各企業からの情報提供を実施。

○企業1

受入計画に基づき1日目午前には会社概要、施設見学、オリエンテーションを行い、午後から大曲のイチゴ園場で育苗の作業体験を実施。受入計画策定時は、体験内容は作業員の補助として高校生用の特別なメニューは設けない。赤井園場では職場体験等の受入実績有。大曲の従業員は初経験。従業員にも刺激となった。

受入計画があれば役員間で事前に情報共有が可能。高校生が派遣先での行動計画を作成してきたことに感心。東部地方振興事務所から提示の様式も使いやすい。

作業体験後はパート従業員も交えてミーティングを実施。生徒は終始緊張気味であったが、興味を持って一生懸命取り組んだ。育苗の作業は成果が分かりにくい。今度は収穫時期にまた体験して、収穫や販売の経験としてほしい。

桜坂高等学校の報告会は2年生から1年生へのレクチャーや企業と先生方の意見交換が実施され、企業側の想いを後日生徒や先生に直接伝達できる有意義な取組。1年生へのレクチャーは次年度にも繋がる取組として評価。当社では現在商品開発を目指す。従来は大学、高校との接点が不足。関係づくりとして、大学生、高校生のインターンシップ受け入れは有意義。

新入社員教育は、企業理念を代表から教育。元気で明るい社風。従業員や園場の管理を任せられると責任感も生まれ、元気に取り組む。採用と人材育成が現在、役員間共通の課題。従業員は農業が好きで入社。3年目位で目標を見失う傾向。個人の特性を尊重しつつ目標をどう見せるか、楽しませるかが会社としての課題。

○企業2

オリエンテーション、社会人としての心得、客室ベッドメイキング、宴会場でのホテルサービスの基本学習、テーブルセットを実施。最近のインターンシップは2日間が主流。テーブルマナー学習も取り入れ内容の充実に努めている。水産高の調理類型もあるが、調理場へのインターンシップも増加傾向で、従来から受け入れている専門学校等と同様に包丁の使用法や調理の基本のカリキュラムを設定。インターンシップは宮城水産高校、市立桜坂高校、石巻商業高校、石巻北高校等16回のインターンシップを受入予定。石巻専修大学からも20名のインターンシップを受入。岩手県内、仙台市の調理師学校からも1週間程度のインターンシップを受入。

受入担当は管理職を選任。内容が単調にならないように注意して指導。担当者を選任すると指導方法も熟練し、円滑な運営が可能。

課題は当社への就職者数。今までは「体験に来ました。」で終わっていた。今年度は水産高校から2名が応募。

最近の新卒採用とは対話を心掛け、様々な心の動きにも対応。指導担当と所属長が常に相談できる環境を整備。ホテルは見た目よりハードワーク。社会に出た時に甘えがあると1年以内の離職につながる。小中学校又は家庭から教育を積み重ねた成果を就職に出す土壌づくりが重要。

○企業3

当社は製造部門、販売部門に大別。体験者の希望に応じて内容を変更し対応。今回はリサーチ不足。体験者にはつたない内容となった。時期が7月下旬で御中元繁忙期であり、通常インターンシップと内容を変更。繁忙期以外であればさらに体験を増やして当社製品を本当に製造体験できた。インターンシップ生4名は従業員ともうち解け、与えられた環境に対してうまく向き合って体験したことに感心。

インターンシップの担当は私（窓口）以外未設定。現場のエリア長やその部下が誰でも対応可能なように訓練し体制の構築を志向。

インターンシップは参加した生徒の今後の人生設計に役立つ事を願って今後も継続的に実施。

新卒採用後、仕事に分からないうちは希望しない部所への配置の場合も。将来を志向するためには、その職場で目標となる人物を定めることが重要。目標となるメンターといった中間層の人材育成を心掛けている。成長の都度、声をかけ中間層を育成することで底上げに注力。

社内教育等の人材育成は早期に結果が出ず、経費もかかり意義に疑問符が付くこともあるが、継続することで成果が現れるものと考え、中間層、新入社員教育を今後も継続。

○企業4

「受入計画」の内容に沿って準備。様式が統一でどの学校が利用する場合も見やすい内容。1日目は本体の建設業、2日目は科学地球儀施設の運営補助。企業名“道路”は道路工事のみとの誤解を受ける。他の土木工事、太陽光発電、科学地球儀等資料に体験以外の業務紹介も盛り込むべきだった。

女子生徒3名の参加で遠慮があり、指導担当とのディスカッションの時間が少なかった。

指導を受けるたびに“ありがとうございます”と言える生徒、指導し甲斐有。受入計画の他、学校から生徒の事前情報があり、指導内容の検討が可能に。

女子高校生の建設現場でのインターンシップは事例が少なく、現場従業員も2日間は笑顔の絶えない職場に。現場にプラスの影響有。

今回の体験は測量を実施。次回は工事の着手から完成までの流れを体験できる仕組で受入計画を検討予定。

成果報告会は短期間でキャッチコピーや体験内容をまとめ、発表も想いが伝わる内容。発表では個人の想いが先行し、早口で時間が余る傾向。2年生が1年生に発表する仕組みも良い。発表時にイラストを掲げる姿勢は目線を遮り、誰に向けた発表かが伝達されない。練習時間にコミュニケーションを高める指導も重要。

他社の発表は内容把握が難しく、企業、生徒とも名札を着用すると互いに理解しやすい。3回の発表をどのルートで回るか予め指示があるとスムーズな運営となるのでは。

震災後は被災者の雇用を優先し、新卒者の採用は未実施。しかし、社内は地元高校卒業後、他地域の他の業種に就職したが地元に戻って弊社に就職したものが半数以上であり、インターンシップはUターン就職にも参考となる取組。

○企業5

インターンシップは従来から実施。今回の石巻地域版インターンシップの「受入計画」作成、ガイドブックへの掲載は有効な取組。最近は多くの中学校が職場体験を実施し、既に目標が定まっている生徒、そうではない生徒の温度差を同時に指導する方法が課題。院内の様々な業務体験を用意。日程が2日間程度で内容が密になる傾向。実施内容について先生・生徒との事前オリエンテーションの設定が有効では。高校は進学・就職希望者で区別。進学希望者に進学先以外の情報提供は未実施。現代の医療職は進学後の就職が常識。当院では就職後に看護学校進学の奨学金制度も用意。生徒・特に保護者への情報提供手法が課題。異業種から30代半ばでの転職者が多数。新卒者と世代ギャップも発生。事前のインターンシップでの職場体験は、生徒、当院担当にも良い経験。桜坂高校の成果報告会も実施後の生徒の感想や教員の意見等が聴取できる良い機会。

○企業6

インターンシップは桜坂高校、宮城水産高校、中学校の職場体験、復興庁主催の大学生を受け入れ。本取組以外では、今年は早稲田大学、名古屋学芸大学、千葉商科大学を1週間から10日間受け入れ。私（代表取締役）からの講話では、弊社の概要の他に、「なぜ石巻は魚の街なのか、どんな魚が捕れるのか」をテーマに魚に関する事、食に関する事。食糧自給率39%は知っていても、宮城県は70%台。米と魚は200%を超えていること。地元企業、産業を知る機会に。食に関する工場でも大切なことは「安全」。食の安全担保。工場内全室空調完備。石巻の水産加工工場は清潔になり、汚いというイメージは大きく変革。生徒を通して地域に知ってもらいたい。

○企業7

受入計画を策定し、施設長、事務長、受入担当で話し合い、体制を確認。指導する職員の負担軽減も意識。受入計画に基づき、各セクション共通認識で生徒の迎え入れ。

介護の現場は人手不足。如何にして就職希望者にその魅力を伝え、就職者を増やすかが課題。

今回の桜坂高校の受け入れでは、学校側の事前指導が行き届き、生徒の取組姿勢が非常に良い。あいさつや入所者との関わりの中でコミュニケーションも取れていた。施設では資格取得者学生の実習の場ともなり、実習指導者資格を持つ職員が指導担当としての実践の場としてもインターン生への指導は良い経験。リーダークラスの職員の資質向上にも寄与。

成果報告会では、異業種の担当者との意見交換で良い刺激。学校と受入側の意識の共有が促進される取組。

高校新卒者は入社当初、資格は未取得。2～3年目の担当者をチューターとして配置、資格取得に関する支援（介護基礎受講制度）を法人負担で実施。実務経験3年経過後の国家資格（介護福祉士）取得に結びつける。今年は高卒者3年目の2名が合格。

政府は一億総活躍で介護離職者を無くすとするが、下支えする介護職員が深刻な人出不足では本末転倒。高校生の人材は資格が無くても受け入れ、一人前に育成。市内どこの介護施設も同様の取組。報道等の影響で厳しい現場のイメージのみが先行。現場の職員は楽しく明るく働いている。興味のある生徒及び保護者にその情報を提供願う。

○市立桜坂高校

受け入れ及び成果報告会への参加に感謝申し上げる。成果報告は週1コマの総合学習で準備。少ない時間の中で課題も多く、次年度以降はさらに要検討。発表者、聴講者ともに満足のいく発表を、というご意見は全くそのとおり。今後ともご支援を願う。

○座長

石巻地域版インターンシップとして、東部地方振興事務所が統一様式、実施体制のガイドラインを作成。事後の成果報告・評価といった流れを作り、実施。県内他地域では例のない取組。改めて初年度協力の企業、病院、施設の皆様に御礼申し上げます。次年度以降もより多くの企業に協力頂けるよう努めて行く。また、今年度の桜坂高校も含めてより多くの高校に活用を広めてほしい。

【協議事項 4 意見交換】

○市立桜坂高校

今回の桜坂プロジェクトの学校側のねらいとして、受け入れ担当者が新入社員や若手であった場合は、高校生が年齢の近い先輩に「やりがい」について質問し、聞かれた側も自ら問い直す機会や学びの機会と捉えて成長してほしい。企業にもプラスになる。という考え方。自社の事業に興味関心を深めて仕事に取り組むことがその後の人生に活かされる。

○石巻北高校

進路指導部でインターンシップを担当。生徒の希望職種が広く、高校生の就職先としては現実的で無い場合もある。広い職種の開拓で苦勞している。今回東部事務所の「ガイドブック」の提案には非常に感謝している。様々なインターンシップ先を開拓し、生徒の可能性を広げたい。

○座長

ガイドブックの指摘。当初昨年度は69社掲載で、現在は20社ほど加わっている。当初は「ものづくり企業」を中心に掲載。高校からの要望で、生徒の希望に添った幅広い職種の提供を目指して、サービス業、医療・福祉、農林水産業まで広げて内容充実を図っている。ガイドブックに関する要望を事務局までお寄せ頂きたい。

○中学校長会

中学校では高校のインターンシップに近い内容の「職場体験」を全ての学校2学年で実施。地域内の企業等に長くて3日間、短い場合は1日実施。中学卒業後すぐの就職者は最近では居ないので、職業観・勤労観の醸成が主な目的。

今回この会議に始めて参加し、石巻地域版インターンシップの取組、システム化されたものがある事を知って、中学校は10年前から職場体験がスタートし、独自に受入先を開拓して、歴代教員間で受け継がれてきたが、受入先は増減しながら実施。高等学校の取組を知り、企業側の意見も聞いた。中学校がこのシステムで実施できるかどうかは難しいか。

最近の中学生の進路意識。復興に寄与したいという生徒は多い。沿岸部の漁業の家庭では男子生徒は漁師を継ぎたいと言う。中学校としては宮城水産高校への進学を指導するが、石巻工業高校を希望すると言う。職場体験や将来の希望と「進学」という考え方が分離していると感じている。震災後は交通機関が不通で仙台方面への進学は少なかったが、最近は特に成績優秀者、スポーツの優秀者が仙台圏の成績上位校への進学が増加。それが直ちに地域の人材流出とは言えないが、将来戻ってくる取組も必要。

○小学校長会

ガイドブック、インターンシップの受入計画は地域の産業人材育成・定着に向けた良いシステムである。本日高校、企業からの説明も頂いて、小学校として何が出来るのか。何をすべきなのかを考えながら話を聞いた。やはり小学校段階から勤労観の醸成。働くことの大切さ、喜びを係活動、清掃、家庭での手伝いを含めて、小さいうちから育てていくことが就職に繋がっていく。改めて人材育成の土台となる部分だと感じた。改めてあいさつ等を大切に子供達に身につけさせて行きたいと感じた。小学校でも社会見学で企業にお世話になるが、仙台方面へ行く傾向。先を見据えれば地元企業への見学・体験が重要。企業情報バンクの整備が必要。地元での体験が将来の地元就職に繋がっていくのではないか。今日の会議で感じたことは、進学校での取組がなされていない。高校時代にはインターンシップでなくても地元企業や産業について理解し、進学後の地域への就職に結びつけることが必要。そのための取組について考えていく必要がある。

前回の産業人材育成プラットフォーム会議の議事録も拝見した。高校生の離職率が高い。宮城県教育委員会で宮城県教育基本計画を平成22年に策定し、そこでも大きな課題。石巻の高校生の離職率についてもこの推進会議の場で議論することで、次回のプラットフォーム会議に繋がっていくのではないか。

○宮城県東部教育事務所

小中学校の取組が中々見えづらいとう指摘もあり、あいさつも出来ない。という厳しい指摘も受けな

がら、今日望んでいた。志教育をキーワードに取り組んでいる。「関わる」「求める」「果たす」の3つのことを達成するため、トイレ掃除をはじめ、自分の責任をしっかりと果たす子供、友達を大事に、目標を持って取り組む、勉強をやり遂げるといふことで小中学校は取り組んでいる。最近、いじめ、不登校の増加という指摘もあるが、石巻地域の明るい話題として、全県対抗の小学校算数チャレンジ（難問をチームで解く）大会で、石巻市が県内第一位が須江小。第二位が東松島の矢本西小。と当管内が1、2位を独占。学力低下が取沙汰される中、石巻の小学生は頑張っている。

震災以降6年目を迎えるが、地域の子供達は生き活きと頑張っていると感じている。今回のこのプラットフォームの取組に参加しながら、小学校から農家や海の体験活動をたくさん取り入れて、中学校進学、高校選択、進路、就職選択に縦に繋いでいけるように取り組んでいきたい。

○座長

本日の長時間の議論に感謝申し上げます。インターンシップをはじめ、ガイドブックの活用、「声出し・話し方」セミナーはこの圏域、石巻地域産業人材育成プラットフォーム独自の取組として進めている。本日頂いたように課題、改善点も多々ある。皆様の協力を得ながらこの活動を進めていきたい。

今後ともよろしくお願ひしたい。

以 上